

青立ち防止対策を踏まえて、JAなんと管内の播種は繰り下げが進み、単作大豆の播種始期は6月1日となりました。一方、麦あと大豆は大麦の刈取りが例年より遅れたため、始期は6月12日頃となっています。単作大豆の出芽・苗立ちは概ね良好となっています。今後は、生育に合わせた管理を徹底しましょう。

1 培土 ～適期に2回確実に行う～

- (1) 培土は、①根域の拡大、根粒の増加、②雑草の抑制、③排水の促進、④倒伏防止の効果があります。
- (2) ほ場が乾いた条件で適期に行い、株元までしっかりと土をかけましょう(表1、図1)。

表1 培土の時期と高さ

	時期	高さ
1回目	本葉2～3葉期 (播種後20～25日頃)	子葉が埋まる程度
2回目	本葉4～5葉期 (播種後30～35日頃)	初生葉が埋まる程度

2回の確実な培土
1回目は遅れずに、2回目は確実に！

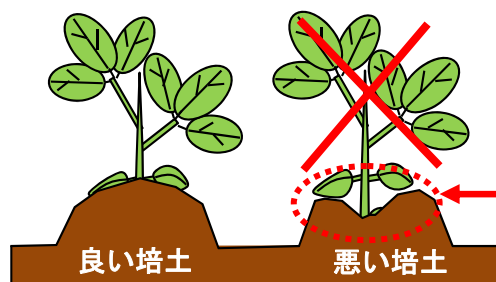


図1 培土における株元への土寄せ方法

- ◆株元に凹みのあるM字型培土では・・・
- ・株元に水がたまり、湿害や病害の原因となる
 - ・新根が伸びず、生育不良となる
 - ・株間に発生する雑草を抑制できない
 - ・倒伏しやすい

2 培土後の排水対策 ～培土後にできた溝と額縁排水溝を確実に連結！～

- (1) 培土後は、溝を額縁排水溝および排水口に速やかに連結しましょう(図2)。
- (2) 降雨後はほ場を巡回し、水がたまっていないか必ず確認し、溝の手直しを行います。

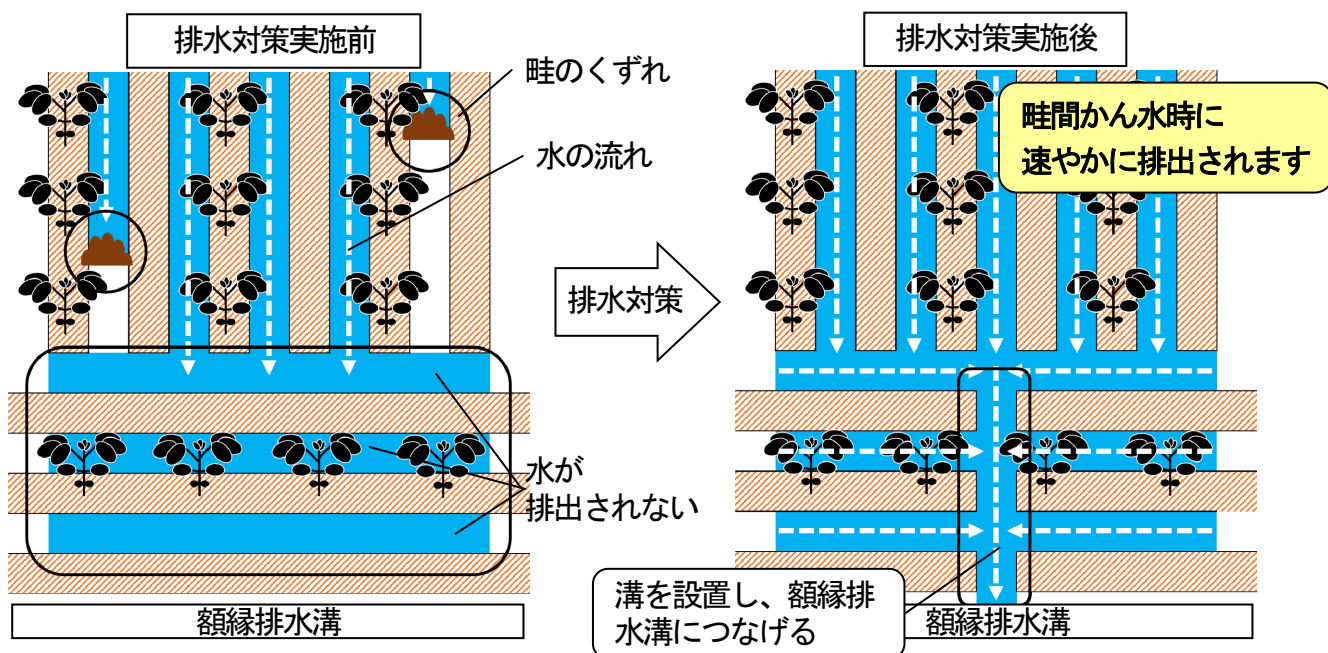


図2 溝の手直し例

3 雑草防除

(1) 苗立本数が少なかった場合や1回目培土後、2回目培土前に雑草が発生している場合は早めに除草剤を散布しましょう。

表2 生育期間中の使用可能な除草剤

薬 剤 名	適用雑草	使用時期	使用方法	散布量 (10a当たり)	総使用回数
ポルトフロアブル※1	1年生イネ科雑草 (スズメノカタビラを除く)	イネ科雑草3～10葉期 (収穫30日前まで)	全面散布	200～300ml (水100ℓ)	2回以内
大豆バサグラン液剤※1	1年生雑草 (イネ科雑草を除く)	大豆2葉期～開花前まで (雑草の生育初期～6葉期) (収穫45日前まで)	全面散布	100～150ml (水100ℓ)	1回
バスタ液剤	1年生雑草	畦間処理：雑草生育期 (収穫28日前まで)	畦間散布 ※大豆にかからないようにする	300～500ml (水100～150ℓ)	3回以内
ザクサ液剤					
ダイロンゾル※2	1年生雑草	生育期(畦間、株間処理： 5葉期以降、雑草生育期) (収穫30日前まで)		100～200ml (水100ℓ)	1回

※1 ポルトフロアブルと大豆バサグラン液剤は混用することができます。

※2 ダイロンゾルはザクサ液剤またはバスタ液剤を混用することで抑草期間が長くなります。(混用の際はダイロンゾルを先に水に溶かす)

難防除雑草(帰化雑草等)の農用地へのまん延防止対策

近年、県内各地で大豆ほ場を中心に帰化アサガオ類が目立ってきています。発生が見られた場合は速やかに除去しましょう。これらの雑草は、生育の速さや繁殖力の旺盛さから、防除が困難なため、畦畔で見られた場合も速やかに除去し、ほ場への侵入を防ぎましょう。

1 難防除雑草(帰化雑草等)の種類



アオゲイトウ
(ヒユ類)



オオイヌホオズキ
(イヌホオズキ類)



マルバシリコウ
(帰化アサガオ類)

厳重注意

南山田や北野
地区の道路縁
などで確認

2 難防除雑草(帰化雑草等)の特徴

(1) 共通的な特徴

- ① 生育が旺盛
- ② 短日性で種子を多量に生産
- ③ 発生期間、生育期間が長い
(だらだら発生する)

(2) 種類別の特徴

- ① 帰化アサガオ類 ……つる性。ほ場で密生することで倒伏の原因や機械作業の妨げになる。
- ② イヌホオズキ類、アオゲイトウ ……葉や子実が収穫物に混入した場合、汚損の原因になる。



畦畔などから
ほ場へ侵入する

帰化アサガオ類が繁茂した水田畦畔

お問い合わせは、JA なんと営農部(62-0261)または砺波農林振興センター(32-8147)へ